

1. 略歴

1991年3月	東京大学文学部東洋史学専修課程卒業
1993年3月	東京大学大学院人文科学研究科（東洋史学）修士課程修了
1995年3月	東京大学大学院人文科学研究科（東洋史学）博士課程中退
1995年4月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手
1999年4月	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源利用研究センター助手 [2000年5月に、東京大学より博士（文学）の学位を取得]
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2018年9月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

中国近代史

b 研究課題

主な研究課題は、近代中国における政治体制の模索、都市政治、経済建設、ナショナリズム、日中関係史。最近では、近代中国における歴史学の形成と日本の「東洋史学」の交流の考察にも関心がある。

c 概要と自己評価

中国近代における政治体制、中国沿海部と内陸部の経済的関係、知識人の国際関係認識など、複数の研究課題を並行して進めている。それらの成果の一部は論文にまとめて発表することができたが、それぞれのテーマに即した著作としてまとめていく作業も進行中である。

d 主要業績

(1) 論文

吉澤誠一郎、「近代世界のなかの日本と清朝」、波多野澄雄・中村元哉編『日中戦争はなぜ起きたのかー近代化をめぐる共鳴と衝突』、中央公論新社、2018.10

吉澤誠一郎、「危機のなかの清朝」、小松久男編『歴史の転換期 [9] 1861年 改革と試練の時代』、山川出版社、2018.10

吉澤誠一郎、「20世紀中国における人口論の展開」、『歴史学研究』978号、2018.12

吉澤誠一郎、「五四運動とその残影」、『歴史地理教育』891号、2019.3

吉澤誠一郎、「近代日本の中国城市指南及其印象：以北京、天津為例」、巫仁恕主編『城市指南与近代中国城市研究』、開源書局、2019.6

3. 主な社会活動

(1) 学会等の委員

国内、日本学術会議、連携会員、2014.1月～現在

国内、東洋文庫、兼任研究員、2009.4～現在

国内、中国社会文化学会、理事、2001.7～現在

国内、東方学会、学術委員、2013.6～現在

国内、東洋史研究会、評議員、2008.11～現在

国内、史学研究会、評議員、2013.6～現在